目次

編集にあたって　姜尚中

巻頭言　妹尾達彦

凡例

第1章　中国史上ただ一人の女性皇帝　妹尾達彦

はじめに……003

武則天（六二四?～七〇五）……006

一、第一期――皇后になるまで（六二四～六五五）　武則天の父と母／高宗の後宮に入る

二、第二期――皇后・皇太后時代（六五五～六九〇）　皇后になる／王皇后と蕭淑妃の運命／蟒氏と梟氏／〝武則天時代〟／夫との関係――垂簾の政を始める／一回目の舞台移動――太極宮から大明宮へ／二回目の舞台移動――長安から洛陽へ／皇太后になる――臨朝称制の開始／神都洛陽の誕生

三、第三期――皇帝時代（六九〇～七〇五）　神都――六九〇年（天授元）九月九日／建国式典にそなえて――新しい暦と正統王朝の制定／則天文字は周王朝の正統性を主張し、官人の心を支配する／瑞鳥が出現して武則天の建国を祝う／建国の秋／則天門からの光景／明堂という旗艦劇場の建造／神都洛陽の南北軸線は長安の東西対称の中軸線とは異なる／仏教社会の形成と寺院の財力／尊号の変遷――天后から聖神皇帝へ／転輪聖王になった武則天／仏教経典が女性皇帝を正統化する／なぜ仏教を必要としたのか？／「女帝の時代」は仏教の全盛時代／東アジアの中の武則天

四、再び、母のもとへ　母の陵墓・順陵／母との最後の面会／上野の森で武則天に出会う……047

高宗（李治）（六二八～六八三）……050

楊氏（五七九～六七〇）……053

徳感（生没年不詳）……055

その他の人物……

呂太后（呂后）／鄧太后／王太后／竇太后／馮太后／
霊太后（胡太后）／西太后／煬帝／李昞（世祖元皇帝）／李賢（章懐太子）／
高祖（李淵）／太宗（李世民）／李弘（孝敬皇帝）／
中宗（李顯）／睿宗（李旦）／玄宗（李隆基）／王皇后／蕭淑妃／
韋后／太平公主／褚遂良／長孫無忌／霊王／王子晋（王子喬）／
宣帝（劉詢）／元帝（劉奭）／王政君／王莽／武華／武士彠／
楊達／武承嗣／武三思／昊天上帝／弥勒／転輪聖王／
アショーカ王／斗母聖君（斗母元君）／粟田真人／司馬光

第2章　玄奘、その理想と現実

倉本尚徳

はじめに……073

玄奘（六〇二頃～六六四）……077

一、中国からインドへ　玄奘の生い立ちと出国前の事跡／密出国の苦難と「不東」の誓願／高昌王との出会い／念願のナーランダー寺へ／インドにおける玄奘の事跡に関する古写経本『続高僧伝』の特異性

二、帰国後の玄奘　玄奘と太宗／永徽六年の呂才事件／仏光王の誕生／顕慶二年の洛陽行／西明寺入住／玉華寺入住と示寂／玄奘死後と武則天の台頭／相対化された玄奘像

霊潤（五八〇～六六七以降）……114

道宣（五九六～六六七）……119

法沖（生没年不詳）……123

窺基（六三二～六八二）……125

その他の人物……127

鳩摩羅什／真諦／波羅頗迦羅蜜多羅／那提／地婆訶羅／義浄／道基／慧休／法常／僧辯／道岳／僧称／戒賢／高昌王麴文泰／統葉護可汗／クマーラ王／ハルシャ・ヴァルダナ／辯機／円測／慧立／普光／于志寧／許敬宗

第3章　東アジア仏教の基調を築いた僧侶・居士

石井公成

はじめに……143

元暁（六一七～六八六）……146

一、南北対立の中での再評価

二、元暁の時代

三、元暁の生涯

四、元暁の仏教学　著作の成立順序

五、元暁の後半生

六、没後の評価

七、近代における再評価

義湘（義相）（六二五～七〇二）……174

法蔵（六四三～七一二）……177

淡海三船（七二二～七八五）……179

義天（一〇五五～一一〇一）……181
明恵（高弁）（一一七三～一二三二）……183
崔南善（一八九〇～一九五七）……185
その他の人物……187
真諦三蔵（パラマールタ）／吉蔵／円光／慈蔵／玄奘／智儼／円測／薛聴／薛仲業／慧沼／恵空／大安／厳荘／憬興／太賢／見登／審詳／智憬／寿霊／最澄／知訥／延寿／一然／均如／凝然／富永仲基／楊文会／金知見

第4章 先進文明としての仏法の受容

吉田一彦

はじめに……205
道慈（六七〇頃～七四四）……208
道慈の基本情報／大宝の遣唐使とその帰国報告／〈天皇制度〉の成立／「大王」から「天皇」へ、「倭」から「日本」へ／空間・時間・法・経済の支配――日本の〈天皇制度〉の特色（一）／皇孫（天孫）降臨と血筋継承――日本の〈天皇制度〉の特色（二）／政治の主体と天皇の役割――日本の〈天皇制度〉の特色（三）／持統天皇の政治意志／藤原不比等による制度の完成／道慈の詩文を読む／濃厚な政治性／道慈の仏法の系譜とその特色／道慈と西明寺と大安寺／天然痘の流行と道慈／国分寺国分尼寺造立の計画へ／『日本書紀』の編纂・執筆への参加／晩年と死去
行基（六六八～七四九）……242
鑑真（六八八？～七六三）……254
最澄（七六六／七六七～八二二）……262
空海（七七四～八三五）……272
円仁（七九四～八六四）……278

第5章 天孫から転生へ――チベットにおける権威の継承とその変化

岩尾一史

はじめに……291
ソンツェン・ガムポ（七世紀初頭？～六四九）……295
ティソンデツェン（在位七五六～七九七）……297
ティツクデツェン（在位八一五～八四一）……298
喃厮囉（九九七～一〇六五）……299

カルマ・パクシ（一二〇四／〇六～八三）……300
その他の人物……302
ニャティツェンポ／文成公主／ダルマ・ウィドゥムツェン／オースン／ユムテン／チャンチュプオー

第6章 突厥とソグド人
——唐帝国をゆるがした草原とオアシスの民

鈴木宏節

はじめに……307
トニュクク（？～七二五頃）……311
一、唐帝国の支配下にはじまる生涯
二、突厥復興の功臣として
三、突厥最盛期の武人として
四、国舅として
五、トニュクク碑文とその後
安禄山（七〇三／七〇五～七五七）……330
一、安禄山の出自とその時代
二、安禄山の出世とその背景
三、幽州の軍団
四、反乱とその後
イステミ・カガン（？～五七五／五七六）……342
阿史那思摩（五八三～六四七）……344
モユン・チョル（葛勒可汗）（？～七五九）……348
ボギュ・カガン（？～七七九）……353
その他の人物……356
黙啜／キョル・テギン／マニアク／ヤブグ・カガン／高仙芝／不空

第7章 八世紀の世界文学
——歴史は詩人をもって語りうるか

松原　朗

はじめに……363
杜甫（七一二～七七〇）……366

一、杜甫の生涯　少青年期／長安期／乱中期／秦州と同谷／蜀中期／峡中期／最後の漂泊期
二、歴史に占める杜甫の位置　「新しい人間像」――思索する表現者／「新しい詩」
三、文学世界の創造――必然と偶然

玄宗（六八五～七六二）……393
李白（七〇一～七六二）……395
張説（六六七～七三〇）……404
張九齢（六七八～七四〇）……406
李林甫（六八三～七五三）……408
その他の人物……410
王勃・楊炯・盧照鄰・駱賓王／陳子昂／杜審言／宋之問／
李邕／房琯／孟浩然／王維／高適／岑参／顔真卿

第8章　唐朝の破壊者、新時代の建設者？

山根直生

はじめに……419

黄巣（?～八八四）……422
一、黄巣登場以前の変転（七五五～八三〇年代）　専売と貴族官僚／塩商人と詩人
二、黄巣の生涯（八三〇年代?～八八四）　少年黄巣と菊の詩／「小康」とその動揺／塩商の窮迫と唐代科挙の矛盾／黄巣集団の構造とその記録／反乱の第一段階、王仙芝と黄巣／反乱の第二段階、名将高駢と広州攻略／反乱の第三段階、名将の失策と「黄巣のルビコン川」／反乱の第四段階（上）、長安占領と斉建国／反乱の第四段階（下）、唐朝軍政の崩壊と新羅人幕僚／反乱の第五段階（上）、長安「占拠」と次世代の登場／反乱の第五段階（中）、陳州攻略と春磨寨／反乱の第五段階（下）、狼虎谷と黄巣の最後
三、黄巣以後（八八四～）　唐朝の黄昏と高駢の転落／黄巣以後の群雄と黄巣に欠けていたもの／黄巣最後の詩作と「蛇眼」

顔真卿（七〇九～七八五）……472
第五琦（生没年不詳）／**劉晏**（七一五～七八〇）……473
杜牧（八〇三～八五三）……474
高駢（八二一?～八八七）……474
崔致遠（八五八～?）……475
朱全忠（八五二～九一二）……476
銭鏐（八五二～九三二）……477
その他の人物……478
龐勛／王郢／僖宗（李儼）／王仙芝／林言／尚君長／尚讓／呂用之／張璘／
梁纘／畢師鐸／鄭漢璋／秦彦／許勍／李罕之／劉巨容／王鐸／王璠／周寶／

李克用／趙犨／秦宗権／張全義／儲氏／楊行密／馬殷／高勗／高郁

第9章 東南アジアにおける初期国家の展開

青山亨
松浦史明
上田新也

はじめに …… 487
島嶼部
サンジャヤ（在位七一七頃～七四六頃） …… 492
ジャワ島中部におけるヒンドゥー王国の出現／ヒンドゥー教マタラム王国の形成／ジャワ島におけるシャイレーンドラ王家の興隆と衰退／マタラム王国が残した文化遺産
シャイレーンドラ …… 497
シャイレーンドラ王家の隆盛／ボロブドゥルの建立／マラッカ海峡海域への転出／三仏斉興隆期のシャイレーンドラ王家
シュリーヴィジャヤ …… 502
義浄（六三五～七一三） …… 504
シンドック（在位九二九～九四八頃） …… 505
大陸部
ジャヤヴァルマン二世（在位八〇二～八三四？） …… 508
アンコール朝の謎に満ちた創始者／ジャヤヴァルマン二世伝説／王と神
インドラヴァルマン一世（在位八七七～八八九頃） …… 513
インドラヴァルマン二世（在位八七五頃～八八九頃） …… 515
呉権（八九八頃～九四四） …… 517
その他の人物 …… 518
バリトウン／真臘／ヤショーヴァルマン一世／ラージェーンドラヴァルマン二世／ドヴァーラヴァティー／シュリークシェートラ／黎桓

第10章 イスラーム帝国アッバース朝の確立と変容

清水和裕

はじめに …… 525

マアムーン（七八六～八三三）……532
一、カリフ位をめぐる闘争――軍事体制の変容
二、バグダードへの帰還――アリー家とイマーム位
三、クルアーンは被造物か――神学論争とイマーム位
四、大翻訳活動とイスラーム文明
マンスール（七一三頃～七七五）……559
ブハーリー（八一〇～八七〇）……562
イブン・スィーナー（九八〇～一〇三七）……566
その他の人物……569
ムタワッキル／ムワッファク／シャーフィイー／
マーリク・ブン・アナス／アブー・ハニーファ／
イブン・ハンバル／ハサン・バスリー／ハッラージュ／
ジャーヒズ／アブー・ヌワース／イブン・ムカッファア／
バヌー・ムーサー兄弟／フナイン・ブン・イスハーク／ビールーニー／
ファーラービー／アフシーン・ハイダル・ブン・カーウース／
ガズナ朝君主マフムード／トゥールーン朝君主イブン・トゥールーン／
サーマーン家／アブドゥッラフマーン一世／ザンジュ

第11章

契丹国の建国と東ユーラシア史の新展開

森部　豊

はじめに……583
耶律阿保機（八七二～九二六）……589
一、契丹統一への道　耶律阿保機という人間／契丹族とは／唐の支配と契丹／「安史の乱」以降の契丹
二、阿保機の誕生　神話／カガンへの足掛かり／雲州の会盟
三、契丹カガンの時代　即位／沙陀の躍進／阿保機の試練
四、契丹国の建国　皇帝即位／沙陀遠征へ／皇都（上京）の造営／契丹文字の誕生／部族制の整備／最後の大遠征／帝国建設の推進力／ある歴史の終焉
述律皇后（八七九～九五三）……620
東丹王（八九九～九三六）……623
太宗（九〇二～九四七）……626
世宗（九一八～九五一）……628
穆宗（九三一～九六九）……629
景宗（九四八～九八二）……631

聖宗（九七一～一〇三一）……632
興宗（一〇一六～五五）……635
道宗（一〇三三～一一〇一）……637
天祚帝（一〇七五～一一二八）……638

第12章

高麗建国者・王建と後三国時代の豪族たち

趙仁成
李成市

はじめに……643
王建（八七七～九四三）……648
松岳の中小豪族／新しい王朝の出帆／後三国の統一／豪族連合政策／西京経営と北方政策／現世求福的信仰／統一君主としての行方／王建の遺訓／新羅から高麗へ
弓裔（?～九一八）……672
甄萱（八六七～九三六）……680
その他の人物……688
金憲昌／真聖女王／崔凝／洪儒／裴玄慶／申崇謙／卜智謙／崔致遠／夫人柳氏／庾黔弼／景明王／景哀王／敬順王／金順式／王規／荘和王后呉氏／朴守卿／朴英規／王式廉／正胤・武／道詵／朴儒／崔彦撝／朴述熙／阿慈介／崔承祐／神剣
執筆者一覧
写真提供・図版出典